

地域人

vol. 37



地域を守り
育む人たち

「故郷には石見神楽がある」

石州長浜面職人 柿田 兼志
(かきた・けんじ)

今回の「地域人」は、柿田勝郎面工房 職人の柿田 兼志さんをご紹介します。

職人への道のり

私は島根県浜田市に生まれ育った生粋の「浜っ子」です。浜田市は八調子の石見神楽発祥の地でとても盛んですから、生まれた時から石見神楽はとても身近で、あるのが当たり前の環境でした。我が家は石見神楽面の店を営んでいる事もあり、幼少期から近所のおばちゃん達に「ケンちゃんも大きくなったらお面屋だね」と言われて育ちましたが、当時はかなり反発しました。小学校4年生から野球を始め、中学・高校と野球に打ち込みました。高校では甲子園出場を果たし、その後「三菱ふそう川崎硬式野球部」に入り社会人野球でプレーしました。10年間の現役の間に日本選手権優勝(日本一)や都市対抗出場も経験し、10年表彰を区切りとして故郷浜田に帰ってきました。職人としては少しだけ遅いスタートになりましたが、故郷を離れた10年間で様々なことを経験でき、とても貴重な時間となりました。幼い頃は「面屋にはならん」と反発していたこともありましたが、やはり蛙の子は蛙でしたね。

心がけていること

令和という新しい年に石見神楽が日本遺産となり、とても感慨深く思います。石見神楽は世界に通用する伝統芸能であり、面・蛇胴・衣装は浜田が発祥の地です。近年、国内外からのお客様が多く見られるようになりましたので、とてもやりがいを感じています。錦織良成監督の最新作「高津川」でも石見神楽を取り上げていただいています。映画には父と共に出演させていただきました。石見神楽を本場の地で、一人でも多くの方に知っていただけるよう神楽関係者と共に協力して発信していきたいと思っています。親子2代で面職人をしているのは大変珍しいといわれています。面作りという文化を、どう次世代に継承していくかということについても力を入れていきたいと考えています。今は面作りが楽しくて仕方がありません。休みの日にも面作りについて考えている時間が多く、24時間お面のことばかり考えています。

面職人にゴールはない

小学生の頃に一緒に面を作った子が中学三年生になり、今度は行事で工房見学に来房してくれました。その際、小学生の時に一緒に制作した面を持参してくれました。今も神楽が大好きで大切に飾っていると聞いて、とても嬉しく思いました。制作時には、当工房の型からでは面白くない、「世界に一つの自分だけの面を」との当主の考えで、大変でしたが粘土で面の型から制作してもらいました。面とは不思議なもので、なぜか作り手に表情が似てきますので、彼の制作した面も穏やかな優しい面に仕上がりました。彼の笑顔は初心を思い出させてくれます。このように子供達やお客様の喜ばれた顔やお手紙は、大変な仕事や制作に行き詰まる時に思い出し、励みになっています。面職人にゴールはありません。日々感謝精進し、古きを大切に日々進化していきたいと思っています。

誇れる文化財に

年に数回、ボランティアとして小中学生と共に面作りをしています。その他、工房見学は多数受け入れています。今はまだ浜田の神楽産業は市の文化財などの保護はありません。いつか子供達が故郷を離れた時に、育った故郷には石見神楽という伝統文化があると誇れるようにしていただきたいですね。そして私を含め浜田市民が協力をして、この故郷浜田に一人でも多くの方が帰って来たいと思えるような町にしていきたいと思っています。



柿田勝郎面工房

〒697-0062 島根県浜田市熱田町636-60
Tel・Fax / 0855-27-1731
営業時間 / 9:00~18:30 定休日:毎週水曜